

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

「新年を祝う会」開催のお知らせ

大代コミュニティ推進協議会

会長 跡辺 三夫

平成十五年「新年を祝う会」を開催致します。

多数の皆様のご参加を賜りますようご案内申し上げます。

記

一、日時 平成十五年一月十二日(日) 十一時〜十三時

二、場所 大代地区公民館体育室

三、会費 一五〇〇円

四、参加申し込み

詳細は回覧文書をご覧ください

五、申し込み締切日

平成十四年十二月二十日(金)

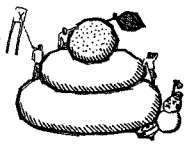
六、祝宴アトラクション

レーザーカラオケを用意します。

出演希望者で専用テープが必要の方はご持参下さい。

今年もお楽しみ抽選会を

予定しております。



あいさつは心のふれあい

出会った人と

あいさつしましょう

ふれあいの読者より

大代南 星 繁子

公園の木の葉がさらさらと音をたて、散って行く何んと風流な事。そして一抹の淋しさも感じられる秋です。

私の人生も季節に置き換えたらこんなところかな?とも思われます。

毎月発行される「ふれあい」を楽しみに読ませていただいています。投稿下さる方々の安否、消え行く戦争の体験、

貴重な人生教訓、あるいは心ほぐれる桃太郎話など荒れ果てる社会情勢の中でほっとする瞬間です。若い世代に少しでも役立てるとしたら、こんな事ではないでしょうか。

濡れ落ち葉的存在で落ち葉となり培養土となって若い人達の肥料になれたらいいなと思う昨今です。

そんな意味でも「ふれあい」は町内の発信源であり、以前祖父母に聞いた昔話の様にせち辛い世の第一線に

居る人達の安らぎになるのではないかと思います。子供から大人まで色々な

世代の声が聞けるとな嬉しいですね。巷では意外に読者が多い様です。

シベリヤの回想

大代南 後藤 清一

車中泊まりで日も改まり墓参も三日目となる。程なくテルマ駅に着く。

やはり怪しい雲行き一雨来そうだ。大事な事を念じながら重いトランクを降ろす。車掌の助けで楽に、剛力さ

すが大女、スパイシー。(ありがとう)

迎えのバスを乗り継ぎ二十分位で宿舎に着く。大粒な雨ポツポツとやってきた。荒れそうな気配、昨日はあんなに

快晴だったのに、今回テルマの墓地が厚生省の手で遺骨収集の途中であり、もしかして出会

いがあるかもと聞き緊張。昨年同行した北村氏もボランティアで参加しているとか、ウナガサ墓地への移動時間となる。ワゴン車に分乗、此処から先二K

m位は徒歩となる。長靴と合羽で身構え滑る足元を気にしながら現地へと急ぐ。昨年同行の皆さんから此処が貴方

が埋葬に関わった処に間違いないかと、しつこく聞かれたが自信がない。半世紀も前の当時を、今此の状態で納得さ

せるものがあるのだろうか、往時を偲ぶものは倒れかかったラーゲル(収容所)、細かった雑木が大木となって伐

採され、草は伸び放題の現実はどうしてもイメージがずれる。だが病院から

の距離、湿地帯に続く丘陵の斜面、遠くに映える山並み等々に納得多分間違

いないでしょう。こんな会話をした事を回想しながら現地に着いた。

間違いでなかった。そこでは懸命な収骨発掘をしておられたのです。

厚生省の方、勿論北村氏の顔も昨年ご一緒したK氏、通訳、案内人と面識の

顔ぶれに笑顔で握手ご苦労さん。労務者は現地のロシア人だ。四十人位の数

かバックホーンで起こし、スコップその他の用具で骨を探す、小さな骨片ま

で丁寧な収集を願う。厚生省の方、又北村氏に発掘の成果について話も聞

けた。「どうですですてますか?でますよ今日の現場は特にありましたね。

ホラあれがそうです」山と積まれた土砂の陰に粘土色したものがこんもりと

大分の数です。それを目の前にした私達は恐ろしくて凝視できず、互いに

背を向け落ちる涙も構わず、これがあの友の同胞の悲しい変わった姿に皆肅

として声もない。あのテントの中にも相当数安置されています。どうぞ会って行って下さい。発掘の方は後三、四日で終わりです。続いて洗骨焼骨し綺麗にして日本に持ち帰ります。私達は遺骨のテントの側に祭壇を急造、線香、ローソク持参の日本酒などお供えし、般若心経を唱え手を取りあつて合掌、耐えて元気で一緒に帰ろうと誓った友に、どうか安らかに眠って下さいと深く頭を垂れた。少し離れた処でロシアの人達は黙って見ている。戦争を知らない彼等は何を考えどんな思いでいるのだろう。友よ後少して貴方達が最も望んだ日本へそして愛する家族の元へ帰れます。もの言えぬ身でも此処よりはましでしょう。そして今の日本の姿を見て下さい。一刻も早く帰してやって下さい。その時こそ始めて安らかな眠りにつけるのではないのでしょうか。

次回に

ご祝儀 お見舞いは

三千元を限度にし

お返し物は

はしないよう

に

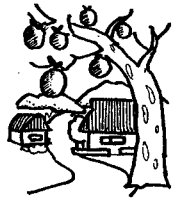
事前の計画

大代東 本郷 新治

昔は「来年のことを言えば鬼が笑う」と言ったものです。誰も将来のことを前もって知ってはいないことのたとえですが、今ではどちらかというところ、すべての面で「計画性」ということが強調され、重要視されているようです。

企業では来年どころか五年先十年先までの長期計画を立てることがあたりまえのこととなっています。そうした計画性を個人生活に取り入れる事が大切です。毎日の生活が無事に明るく子供にも十分な教育を授け、老後も他人のお世話にならないような生活、そのためには生活の計画化が必要です。昔の人はどちらかというところ、そんな長期計画を立てることを不自然と感じ、そのときの思いつきでやっていました。しかし今日ではそんなやり方は無駄も多し、世間から信用されません。ところで計画はいつでも計画通りいくものとは限らないしどんな不慮の出来事が突発しないとも限りません。そうした万一のことを計画に折り込んでおくことを忘れてはならないのです。そして計画をうまく達成するには主人一人の努力では無理です。家族全員の理解と協力が必要なのです。このように考えると企業の短期計画や長期計画となんら変わることがありません。計画の立案にあたっては従業員が参画

し実施に際しては労使が協力して同じ目標に前進するのです。生活設計を合理的にやっていける人は企業においてもすぐれた能力を発揮出来る人です。



俳句

大代西 松浦 富男

哀愁の羅漢に釣瓶落しかな
栗駒の彼方紅葉限りなし
稲妻の走り遠雲つらぬけり
秋寂びて振り袖地蔵の愁いかな
文化祭鉾を持つ手の舞扇

笠神 本郷 勝子

時雨来て山刀伐峠を急ぎけり
時雨去り二重の虹をあおぎけり
秋に立つ山刀伐峠かさこそと
山刀伐峠や厚き黄落踏みしめて
隧道をぬけて紅葉の鳴子峡

川柳

平成の浦島太郎今帰る

友達に譲った籤が大当たり
ボーナス日妻のサーブス夜もすがら
品評会展示の前に予約札
平蔵は泥縄を綱う十手持ち
ジャンボ籤より作業服が
売り切れる



大代中区自然学級終了報告

大代中区社会教育振興員

小野 菊郎

平成十四年度として自然学級四講座（菊づくり、器作り、貞山堀めぐり、カレンダーづくり）を六月から十一月までの長期間延べ十五回三十時間の開催でしたが四十六名のご参加をいただき無事終了致しました。

参加された方々はオリジナルの作品を手になさるご満悦でした。講師は中区にお住まいの七名の方々にお願ひ致しましたが、お忙しい中皆様のお役に立てればと積極的に講師役をお引き受け下さいまして誠に有り難うございました。平成十五年度も、多くの方が参加される講座を開催致したいと考えております。皆様からご希望があれば是非ご連絡をいただきたく存じます。



大人たちのための童心物語

月夜のメルヘン「10」

若生一徳（大代西）

めぐみは、ネグリジェのポケットの餅をそつと押えながら、独り言に祈りをこめ、モミの木を目当てに広場を駆け下りると、いそいそと金色のはしごに身を託したのであります。

「めぐみ、やつと目をさましてくれたか。寝言を言ったり、叫んだりして：声をかけても手ごたえはないし、どうしたものかと、お父さんは心配で：」
「お母さんは？」
「お母さんから夜おそく電話があつてね。めぐみの病気のことを話したら、

『めぐちゃんにすまないことをしたわ。ごめんなさいね』をくり返して、何のこともよく分からないのだが、『お月さままで、うさぎたちが餅をつけている夢をみたのよ』だって、そして『その夢をみてから、心がぐらりと変つてしまったの。めぐちゃんの看護にすぐかけつけます』だって。早くそれを伝えてくれと言いつかつたよ。めぐみ、お母さんは、明日の午後には、帰ってきてくれるぞ」

「ああ、うれしいわ。だって私のお母さんですもの。お父さん！お父さんもこれからは、お母さんを悲しませることは、絶対にしないでね」
「めぐみ、許してくれ。誓うよ。お母さんを幸福にするために、精進努力するから。すまなかつたなア」 (続く)